



The ILH Connection

Connecting our children to the world July 2025 Newsletter



TOPIC : International school

2025
No.2



INDEX

 インターナショナルスクールを考える 黒部 美子

 保護者アンケート International schoolに興味ありますか？

 INTERVIEW インターナショナルスクールに通う卒園児さんのママに聞きました

 保護者アンケート 教えて！オススの水遊び&スポット！

 新教育ママ論 黒部 美子

 ランゲージハウスのお友達ご紹介 NPO法人まるまーる



Published International Language House
Editing The parents of ILH Kindergarten
Address 3-20-19 Shinoharahigashi Kouhoku-ku, Yokohama-city, KANAGAWA
222-0022



インターナショナルスクールを考える

外国人講師を派遣している認可園のクライアント先からこんな相談を受けた。なんでも最近インターナショナルスクールへの転園希望者が増えて困っているという。この園は千代田区二番町にあって、比較的裕福な家庭の子供たちが来ているという。近隣には最近、新しいインターナショナルスクールがオープンし、以前からあるものも含めると3校が鎬を削っているという。ママたちは子供の将来を考えると3歳児ぐらいから英語を始めなくてはと思い、この思いはママ友に伝染する。感染力が強いので、あっという間に他のママも影響する。習い事を選ぶ時と似ているような気もする。

私がアメリカから日本に引っ越しをすることになった時、当時広尾にある西町インターナショナルスクールの理事をやっていたインド人に勧められ、あまり深くは考えずに入学を決めた。通常は英語理解力、読解力、日本語での理解力、そして学費をちゃんと支払えるかの経済力も含めて入学の是非を考察されるのだが、このインド人が“ No problem Kurobe san, everything will be OK.” と言うので、NYからのママ友でもある彼女の助言に従った。1学年12名ぐらいの少人数制で、今はナーサリースクールから中学校まであり、私の娘は中学2年での転入だった。アカデミックな内容はかなりガッツリしていて、日本人講師によって行われる歴史や国語の授業のレベルはかなり高いものだった。また、英語で行われるその他の授業も、NYの現地校に引けを取らないほどに充実していた。問題は授業料で年間350万円を4期に分けて支払う。私も主人も当時は教育ローンを組み、両方の実家からの援助を受けたりと自転車操業的な切り回しだったが、長女と長男はいまでも西町コネクションと言われる世界人脈ネットワークの恩恵を受けているという。

一方で、私は幼稚部を立ち上げる前に、参考となるインターナショナルスクールを見学した。当時は今ほど多くの学校はなかったが、広尾周辺だけでも10校以上のインターナショナルスクールを見に行った。ただ内容はお粗末なところが多く、ビルのワンベットルームのような一室に、やたらとABCの文字が貼られていて、先生はアジア系が多く、ストラクチャーのない学習内容を日替わりで教えているようなところが多かった。いわゆる英語塾に毛の生えたようなところが多かった。アメリカの英語学校のフランチャイズスクールも良く見かけた。ここはマニュアルで毎日の学習が進められているので、ストラクチャーこそあるものの、塾が学校になったような雰囲気、教師たちには教育へのパッションと真剣さが感じられなかった。

幼稚部を作ろうと決めて、西町スクールを一つのビジネスモデルとしたが、もう一つ加えたかったのが海外の現地校からのエッセンスである。アメリカでは旅するごとに学校を訪問した。「この地域に引っ越しするので、あなたの学校も選択肢の一つにしたい」と嘘をつくこともあったが、サンフランシスコで出会ったのが、Laurel Hill という1947年設立の学校だった。ここは保護者が中心となって運営し、園長先生も教育委員会に登録している候補者を保護者が選ぶというシステムである。この学校の入り口には “ the world that moves so fast, we offer something rare, time to slow down, connect and truly be a part of your child early learning journey.” というメッセージがあった。これが目に止まり感銘を受けた。今の幼稚部のイメージが出来上がった。

以前、インターナショナルスクールは外国人講師が英語だけで教育するところという概念があった。またインターナショナルスクールには裕福な子供達が通うという特別意識もあった。今でもその一部は存在するが、世界全体を見回すと、インターナショナルスクールそのものがグローバル化していて、その教え方や教育理念も様々である。

ランゲージ・ハウスもインターナショナルスクールと呼ばれているが、教育理念は日本語と英語をきちんと話せることを目的としたスクールである。また、ランゲージ・ハウスNakajima園やFujisaki園のように、認可園を限りなくインターナショナルスクールに近づける。これは認可園であっても十分なバイリンガル教育を実践することが可能であることを証明したかった。これによって日本の英語教育、特に幼児英語教育に新たな方向性が生まれることを望んでいる。

最後に、インターナショナルスクールを選ぶときは、希望の学校があれば、少なくとも2回以上は見学すること、教師たちと話すチャンスがあれば何年間在籍しているかを確認すること、もし英語が話せるなら、直接在校生に英語で質問することも必要である。インターナショナルスクールは月謝が高いからイコール良い教育をしているわけではない。場所や施設の良さだけでは決して選ばないこと、また、SNSでの評判を鵜呑みにしないことである。一度インターナショナルスクールを選択したら、高校までは継続する経済力も必要である。子供達も最初慣れない英語で苦労する。それを親の都合で辞めるのは、子供に大きな影を残すことになる。インターナショナルスクールの選択は、ブランドバックを選ぶほど簡単ではない。

黒部 美子





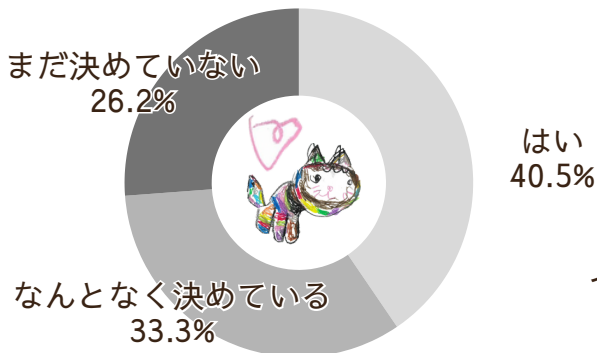
INTERNATIONAL SCHOOL

に興味ありますか？

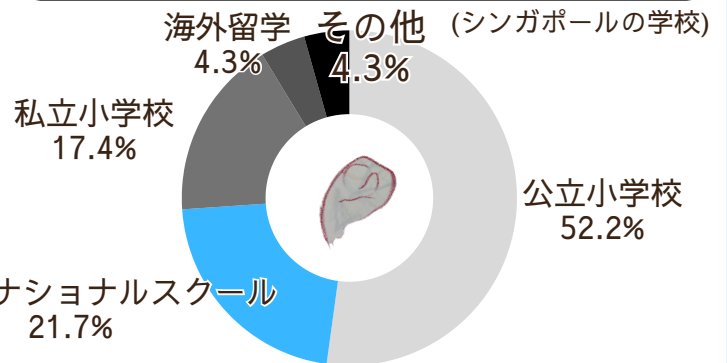


*インターナショナル・ランゲージ・ハウス幼稚部、ランゲージ・ハウスNakajima保育園、ランゲージ・ハウスFujisaki保育園の保護者の皆さまに、無記名任意にてアンケートを実施、その結果を基に作成しました。ご協力頂いた皆さま、ありがとうございました。

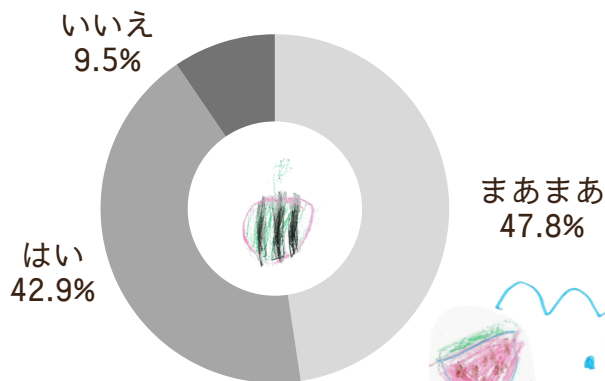
Q1 お子さんの卒園後の進路のご希望は決まっていますか？



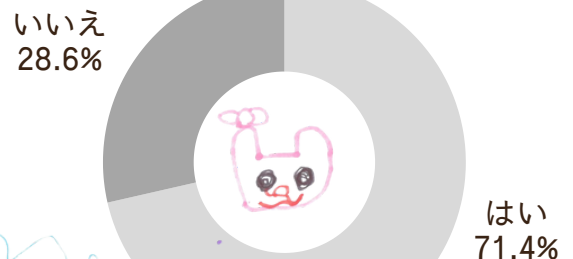
Q2 Q1で『決まっている』とお答えいただいた方へ。進路のご希望は？（複数回答可）



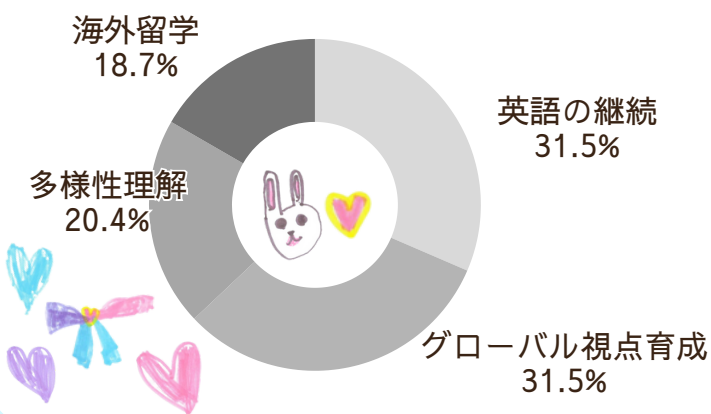
Q3 インターナショナルスクールに興味がありますか？



Q4 希望の学校の費用や校風等の詳細情報を調べていますか？



Q5 インターナショナルスクールを希望する理由は？（複数回答可）



【人格形成、言語等】

- ・日本人としてアイデンティティを確立して欲しい
(インターだとどっちつかずになるイメージがある)
- ・日本には日本の良さがあるので学んで欲しい
- ・子どもの表現が外国人！となってしまうのを避けた
- ・公立小学校で大人数での共同生活を送ることで、世の中には色々な人がいて、自分はどう振舞っていけば良いのか生き方を学んで欲しい
- ・母語での学びの大切さがあると思う
- ・日本語が不自由になることが心配
- ・英語力＝学力ではない(英語はただの言語で慣れたら誰でも身に付く)



【教育内容】

- ・インターナショナルスクールにおける思考力や国語力の高さに不安
- ・日本の教育水準は世界最高水準だと聞くので、日本の一般校+α英語が強いのではないかと考える
- ・公立小学校への申請や訪問が手間
- ・義務教育を修了した事にならなかった場合の子どもの負担、デメリットが不安
- ・中学受験に不利だと考える
- ・中学受験に必要な科目が網羅されているか不安



【通学等】

- ・近くに通わせたいスクールが無い
- ・家から公立小学校の距離が近い
- ・電車通学が心配(小さい内は安全に登校できることを重視したい)
- ・遠い場所へ通わせたくない
- ・送迎の問題
- ・放課後の過ごし方が心配

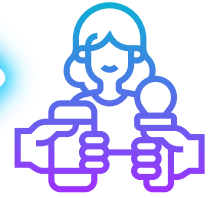


【その他】

- ・学費、諸々の経費が高いイメージがある
- ・親に英語力が無い
- ・子ども自身が別の学校を希望する
- ・まだ卒園後のイメージが出来ていない



INTERVIEW >>>



インターナショナルスクールに通う卒園児さんママに聞きました！

学校の選定理由、お子さまの学校での様子などを教えてください。



この春から、息子がインターの小学校（GRADE 1）に通い始めました。親としては少し不安もありましたが、それを吹き飛ばすくらい、毎日いきいきと楽しそうに通っています。

この学校を選んだ理由は、世界的に認められている「ケンブリッジカリキュラム」を導入していること、そして、しっかりと学習に向き合える環境が整っているところに魅力を感じたからです。

1クラスの数も少なく、先生が目が一人ひとりに届くのも安心材料でした。



さまざまな国や文化のバックグラウンドを持つ子どもたちや先生たちと日々過ごすことで、自然と視野が広がり、柔軟な考え方も育まれていくのではないかと考えています。

振り返れば、ランゲージハウスのプレから幼稚部までの5年間で、子育てや教育について本当にたくさんのことを考えさせられました。これからの時代をどう生き抜いていくか、親なりにじっくり向き合った結果、今の進路にたどり着いたのだと感じています。そんな大切な気づきをくれた幼稚園と、こうしてご縁が繋がっていることを、心から嬉しく思っています。



ご協力ありがとうございました！

教えて！ オススメの水遊び&スポット！

遊び方

- ・色水、絵の具遊び
- ・水風船で投げ合いっこ
- ・氷遊び（プール等に入れて）
- ・製氷機や入れ物におもちゃ（バスボムの中の小さいマスコット、きれいな草花、スーパーボール等）を入れておもちゃが埋まるくらいの水を入れる、冷凍庫で凍らして氷を溶かしながらおもちゃを出して遊ぶ
- ・お風呂場でぬるい水を張って遊ばせると準備も片付けも楽（水風船、普通の風船を入れる）
- ・お風呂にウォーターテーブルを置いて遊ぶ
- ・庭でプール
（スライダーの設置、ボールプール、光るおもちゃを入れてナイトプール）
- ・スーパーボールをたくさんプールに入れてスーパーボールすくい
- ・庭用のホースのシャワーでビシャビシャになるまで水をかけて遊ぶ
- ・庭の園芸用のスプリンクラーが水圧があって子どもが好き
- ・自宅前でのホース遊び（アーチを作るなど多方面へ水を撒いて遊ぶ）
- ・昔ながらの竹で作る水鉄砲を作るところから
- ・バケツにボールを落とす、叩きつけ跳ね返る水遊び
- ・ベランダ掃除



スポット

- ・菊名池公園プール
- ・日産スタジアムの噴水広場
- ・ソレイユの丘のじゃぶじゃぶ池
- ・蓮沼ウォーターガーデン

ウォータースライダーが派手でたくさんあって小学生は大好き
小学生以下でも波のプールでDJ音楽に合わせて水が放水され楽しめる





教育ママ論

ナイジェリアのすごいママ Part1

7月に義理息子のお祖父さんが開校した学校のメモリアルがあり、日本の親戚の1人として儀式に参加した。場所はナイジェリアのかつての首都ラゴスである。この国はアフリカで最大の国土と高い人口密度を誇り、経済的にも石油、金、サファイアなどの鉱石を主な輸出品として持つ国で、コロナ前にはアフリカで最も経済成長の高い国であった。しかしその後の政権交代、政治経済の汚職などで、現在はアフリカでも治安の悪い国となって、外務省によると行ってはいけない国の一つになっている。

また、1969年に独立を果たすまでは、ポルトガルやイギリスの植民地だったこともあり、貧富の格差がものすごい。私がインドやバングラデシュを訪問した時に見た貧民地域の光景よりも、貧しさの度合いが高いように感じた。

さて、こんなナイジェリアから出てきた両親の最初の仕事はテニスラケットの工場だったという。手持ちのお金は20数ドルというから、ほぼ一文なし同然でアメリカに入国している。そんな両親のもとに生まれ育った3人の子供たち、現在長女はニューヨーク州の裁判官、次女はジョーンズホプキンスという有名大学の総務、長男はデジタルシステム開発の会社を運営している。私はこの両親がどのように子育てをしてきたかを知ること、アメリカの黒人社会の教育意識を理解したいと考えた。

この内容に関しては詳しく次号で紹介することにする。





ランゲージ・ハウスの
お友だちのご紹介です！

Mar Mar
まるまーる



こんにちは！まるまーるです。私たちは鎌倉市で活動するNPO法人です。
私たちは、いろいろなルーツ・文化を持つ大人・子どもが、どこで生まれても・どこで暮らしても、自分らしさを大切にできるように・周りのことも大切に、リスペクトしあって生きられる世界であるようにと願い、「ルーツや文化の垣根なく子育て仲間としてつながり・楽しむコミュニティづくり」をしています。その中でランゲージ・ハウスさんと出会い、これまで「バイリンガル・マルチリンガルの子育て環境」や「世界のおもちゃ・絵本」をテーマにしたイベントを共に実施させて頂きました。（とても楽しかったです！）これから、さまざまなテーマで、大人も子どもも楽しめる・もっと笑顔になれるイベントと一緒に企画させて頂く予定です。ぜひ皆さんも遊びに来てくださいね！

Hello! We are MarMar, a non-profit organization working in Kamakura. We wish for a world where diverse adults and children with various roots and cultures can cherish their own identity and live with respect for each other, no matter where they are born or live. We were so fortunate to meet wonderful people from ILH and to have held events together on the themes of "bilingual/multilingual child-rearing environment" and "toys and picture books from around the world" (they were so much fun!). We plan to continue to plan even more events together on a variety of themes that would bring more smiles to those who come to ILH. We hope to see you there!



イベントの情報も掲載されている
”まるまーる”さんの活動がよく
分かるHPはこちら👉